

登録コード	T5003200	開講年度	2026			市民開放授業	
授業科目	建築計画(16T以降)					担当教員	寺内 美紀子
英文授業名	Architectural Planning					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	対象学生	建築学科2年生
講義室	工C3-103教室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
	2.5Tカリ, 2.3Tカリ						
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				建築計画に必要な基礎学力が身についている。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	授業のねらいを達成するために、建築計画の役割について、建築計画学の歴史を学ぶことで概観し、住宅等の小規模な建物の設計行為を想定して、寸法および規模設計という建築計画の基礎知識を習得する。さらに、学校、幼稚園、図書館、美術館、ホール、病院、高齢者施設といった対象ごとに、計画に必要な基礎知識、実例の分析、これらを計画・設計する上での今後の課題について学び、外部空間や都市空間についても計画の要諦を学ぶ。						
(5)授業計画	【01】建築計画の位置付け(1)理念と歴史(ガイダンス) 【02】住宅の計画(1)住居学か住宅学か 【03】住宅の計画(2)細部の設計(寸法設計-身体と移動-) 【04】集合住宅の計画(1)近隣住区論、配置計画、外部空間 【05】集合住宅の計画(2)動線による型とデザインからみたタイプ 【06】事務所の計画(1)コア形式 【07】事務所の計画(2)規模計画、レントラブル比、駐車場 【08】学校の計画(1)沿革 【09】学校の計画(2)平面形式と授業形態 【10】幼稚園の計画 【11】社会教育施設の計画(1) 博物館、図書館の沿革 【12】社会教育施設の計画(2) コンバージョンと再生 【13】社会教育施設の計画(3) 図書館の今日的課題 【14】外部空間の設計 【15】都市空間の設計 ランドスケープと街並み、授業アンケート 【試験期間中】期末試験						
(6)成績評価の方法	建築計画および各種施設の設計に関する基礎知識の理解度を期末試験によって測る。得点率60%以上を合格とする。ただし、2/3以上の出席が認められなければ受験資格はない。						
(7)成績評価の基準	建築計画および各種施設の設計に関する基礎知識の理解度を期末試験によって評価する。 建築計画学の基礎が理解できている：合格水準にある 基礎に加え住宅系施設の基礎知識が理解できている：やや上にある 建築計画学基礎・住宅系施設の基礎・教育施設の基礎が理解できている：かなり上にある 建築計画学基礎・住宅系施設の基礎・教育施設の基礎・社会教育施設の基礎が理解できている：卓越している 出欠の確認は、教員による出欠確認の双方で行う						
(8)事前事後学習の内容	授業時間30時間(2時間×15回)、自習学習60時間(授業の復習2時間×15回、関連文献(授業時に紹介)の講読15時間、予告課題(期末試験時に提出)の作成15時間)						
(9)履修上の注意	コンベックス、三角スケールを用意することが望ましい。						
(10)質問、相談への対応	随時対応、メールで事前連絡をとることが望ましい。 terauchi@shinshu-u.ac.jp						
(11)その他							
【教科書】	佐藤考一、五十嵐太郎：初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、市ヶ谷出版社、2004.1, 2,800円						
【参考書】	日本建築学会編：第3版コンパクト設計資料集成、丸善、2005.03, 2640円						